


2018	名前	選出理由	事例内容(概要)	事例(一番伝えたいこと)	推薦者
7月	K・S	<p>I.「民医連のめざす看護の基本となるもの」の下記2点の評価視点からBESTOfキラリに認定しました。</p> <p>①患者の見方・捉えかた：人間観：人間は社会のありようや周囲の人たち働きかけの影響を受けて変わることが出来ることとらえている</p> <p>②看護の視点・優点：患者の立場に立つ：患者の病態、生活史、労働史、環境を重ねて理解し、共感している</p> <p>II.患者の生活史、労働史を深めている事例であり、患者の喜びを自身の喜び、スタッフの喜びと捕らえた事例</p> <p>BEST Of キラリ</p>	<p>"Aさんは、舌癌の手術後、再発し体調不良と疼痛コントロールのために当院へ入院された。</p> <p>実践した看護介護実践：病室でつけているノートは夜勤帯はナースステーション、朝には本人のところへとスタッフとの交換ノートとなり様々な情報を知ることとなった。内容は、趣味は世界をまたにかけた山登り(故郷の赤城山からエベレストやヒマラヤまで)やトレッキングを行い、冒険家と呼ばれていた。また、いつも片手にノートを持ち、メモを欠かさず、闘病生活も手記として出版されていた。Aさんは、小学校の先生、養護学校の先生をされ、重度障がい児との交流を通して大切なものを教わったと話されていた。また、組合活動や平和運動など積極的に携わったと話されていた。"</p>	<p>"交換ノートというコミュニケーションツールを病棟スタッフで活用し患者の思いを引き出すことが出来た。</p> <p>交換ノートの中に山小屋の歌があり、歌にした。レクレーションに参加してもらい、Aさんはベッド上で鈴を鳴らしリズムを取り、奥さんと共に喜んでくれ、自分もうれしかった。患者の喜びがスタッフの喜び</p> <p>Aさんが亡くなられ山小屋を病室にきらきら輝く宝石を病院スタッフに置き換えれば、患者さんにとって自分の存在はどうであろうか？きらきら輝くスタッフのひとりであろうか？「仕事も余暇も、きらきらか輝いて生きているかい？」とAさん問われている。</p> <p>テーマ：うたの力"</p>	
8月	A・I	<p>I.「民医連のめざす看護の基本となるもの」の下記2点の評価視点からBESTOfキラリに認定しました。</p> <p>①患者の見方・捉えかた：医療観：医療は患者の主体的な参加によって成り立つと認識したか。患者が主体的に言った文句や要望をわがままと捉えず、出来ることを患者と相談して「ハットサイト」の構図を作成している。また、スタッフと共有し、患者の主体的参加を支援している</p> <p>②看護の視点・優点：患者の立場に立つ：患者状況や訴えなど事実をありのままに捉え、想像力を働かせて理解し、共感している</p> <p>II.患者さんの要望にたいして、工夫して病棟看護師全体で応えたことにより、看護師が患者に寄り添うことが出来た事例。</p> <p>エンゼルケアに家族と共にかかわり、患者さん自身のことをより理解できた事例。家族と共に実践するエンゼルケアの意味・大切さを伝えたい事例。</p> <p>BEST Of キラリ</p>	<p>"Nさんは、すい臓がんにて妻が在宅介護をしていた。妻の介護疲れもあり、2018年3月6日にレスパイト入院となった。認知症機能低下はないが、几帳面で頑固な性格であり、ものの位置やコップの使い分け、電気毛布の置き方までにこだわりが強く看護師に対して大きな声をあげることもあった。家族は毎日面会に来ていたが、疲労している印象であった。実践した看護介護実践：入院翌日「ちょっと言いたいことがあるんだけど・・・」と文句や要望を訴えられた時に、全てを受けとめることは困難と伝えると「あんだって必要な物がすぐに見当たらないと困るでしょ」と言われ、「ハットサイト」の構図を提示した。その後、スタッフ皆が、提示してあるとおりに物品を置き、患者からの不満もなく、看護師間でも患者から足を遠のくことがなかったのでうれしかった。3月24日お孫さんと奥様、娘さんに見送られ20：30に永眠された。その際にお孫さん、娘さんがエンゼルケアに加わり、患者さんの生前の様子を聞き、後家族の思いと最後を多くの方に看取られた場面を見て、家族を大切にしていた方だと知った。"</p>	<p>第1印象やイメージで患者さんを判断するのではなく、本人と多くを話したりご家族の話を聞くことで、本当の患者さんを知ることができた。忘れずに大切にしたい。</p> <p>患者さんの要望にたいして、病棟看護師全体で工夫して応えたことにより、看護師が患者に寄り添うことが出来た事例。</p> <p>エンゼルケアに家族と共にかかわり、患者さん自身のことをより理解できた事例。家族と共に実践するエンゼルケアの意味・大切さを伝えたい事例。</p> <p>テーマ：きめつけない</p>	
9月	N・Y	<p>I.「民医連のめざす看護の基本となるもの」の下記2点の評価視点からBESTOfキラリに認定しました。</p> <p>①患者の見方・捉えかた：人間観：人間は様々な制限に対して能動的に働き変え、変わることが出来る存在であると捉えたか。患者の拒否を患者だけの問題と捉えず、患者の反応から看護の直感で対応している事も口の事例である。</p> <p>②看護の視点・優点：民主性：職種の専門性の発揮と対等・平等で民主的なチームを貫いている。予定外の介助浴をチームで協働し実現している</p> <p>II.患者の無言な要求に気づき、チームで協働した事例</p> <p>BEST Of キラリ</p>	<p>"T氏は咽頭癌喉頭癌のターミナル状態であり、大学病院で治療困難との診断を受け、独居にて自宅療養困難なため、看取り方向で当院に転院となった。入院時はケアに対する拒否が強くコミュニケーションすらままならない状況であったが、ケアをきっかけに拒否が少なくなり受け入れてもらえるようになった。</p> <p>実践した看護介護実践：入院時からケアに介入できずにいたが、担当だった日に体調がよさそうであったため入浴をすすめると、「入りたい」との反応があった。入浴日ではなかったが、チームメンバーと協力し急遽介助浴を実施した。実施後「ありがとう」と穏やかな表情で話された。そして、この日を堺にケアに対する拒否がなくなっていった。"</p>	<p>拒否がある患者であってもあきらめずに患者さんと向き合う看護の大切さを実感した。</p> <p>テーマ：看護師の直感</p>	

2018	名前	選出理由	事例内容(概要)	事例(一番伝えたいこと)	推薦者
10月	M・S	<p>I.「民医連のめざす看護の基本となるもの」の下記2点の評価視点からBESTOfキラリに認定しました。</p> <p>①患者の見方・捉えかた：人間観：人間は様々な制限に対して能動的に働きかけ、変わることが出来る存在であると捉えたか。患者の「胸苦しい」「息苦しい」訴えを不安からくるものと捉え、当院以外の事業所（健愛やすみだ共立）にも同じ症状を、毎日頻回に訴えているため、安心できる関わりを統一できるよう働きかけた事例である。</p> <p>②看護の視点・優点：統合性・継続性：組織内外の様々な職種や施設と連携し患者を支援した。</p> <p>II.患者の訴えに寄り添い、不安であることを共感し医師や他院所と情報共有した事例</p> <p>BEST Of キラリ</p>	<p>S氏は「胸苦しい」「息苦しい」などの症状で当院外来以外にも、健愛クリニック、すみだ共立診療所の3箇所を日替わりで、多い時は、2～3回/日、毎日受診していた。訴えの様子や、受診の様子から病気にに対する不安があったと感じた。</p> <p>実践した看護介護実践：かかりつけのすみだ共立診療所へ、患者の情報を伝え、関わり方の統一を提案した。また、主治医が、内服調整や検査を入れ、患者に丁寧に説明したこともあり、患者は落ち着き、受診回数が減った。</p> <p>自分ではどうしたら良いのか？分からなくなっていた時、話を聞いてくれる診療所や病院があり安心できた様子であった。患者から「ありがとな」という声をもらうことができた。</p>	<p>短い時間（問診や診察室での関わり）の中で患者の訴えや受診に至る背景を把握し、患者の問題を一緒に解決できるように、他部署へ情報共有したことで、患者が安心できた事例。</p> <p>テーマ：患者に寄り添い、安心してかかれる医療の提供</p>	<p>看護部 2018.10.31 伊藤</p>
11月	N・I	<p>I.「民医連のめざす看護の基本となるもの」の下記2点の評価視点からBESTOfキラリに認定しました。</p> <p>①患者の見方・捉えかた：人間観：人間は様々な制限に対して能動的に働きかけ、変わることが出来る存在であると捉えたか。→入院時から品コールで同じ訴え（ごはんまだか！お水のませせて！）を繰り返すことに対して、訪室時は必ずベッド脇に丸椅子を置き坐り患者さんお顔を見ることから示威目、近い位置で目を合わせて話すことでNS自身が親近感を持てるようになり余裕が出来接することが出来るようになった。</p> <p>②看護の視点・優点：患者の潜在的・顕在的な要求を引き出し、受けとめその実現に向けて取り組む→訴えに対し、毎回言葉かけや患者に向かう姿勢を変えることなく接することが出来た</p> <p>II.自分の看護実践から自身の看護を振り返り、患者と向き合う時間を作ったことで自分自身の看護が変化した事例</p> <p>BEST Of キラリ</p>	<p>I氏は悪性神経腫で余命1～2ヶ月。全介助。認知、理解力低下あり。ベッド柵を乗り越えたり、暴れたりする状況があり自宅介護が限界となり入院された。頻回のコールや、同じ訴えを繰り返すことに対して「あーまたか」という思いがあった。体位変換のときに「痛い」と言われ、無意識に対応が雑になっていたことに気づかされた。</p> <p>実践した看護介護実践：患者さんへの対応を見直し、訪室時に丸椅子に少しの間でも座るという行動をとった。長く坐るのではなく、挨拶や訪室を知らせるためにほんの少しだけ坐るだけであるが、より近い位置で、視線を合わせて話すことで自分自身が患者さんへ親近感が持てるようになった。そして、忙しい業務の中で、少し自分の気持ちに余裕ができた。夜間コールで「のどが渇いた」と何度繰り返されても椅子に座って一息置いて患者の可をお見ると「よし飲んでもらおう」という気になり、毎回姿勢を整え、トロミをつくり「もういい」と言われるまでスプーンで一口づつ口に運ぶ介助が苦ではなくなった。患者からは穏やかな表情で「ありがとう」と</p>	<p>看護師が心に余裕を持つことで、平穩な雰囲気が出され、ゆったり話すことで患者が満たされ、一時的ではあるがBPSD（認知症に伴う行動・心理症状）を和らげ、その人本来の姿を取り戻すきっかけになることを学んだ事例</p> <p>テーマ：医療者側の心の余裕</p>	<p>看護部 2018.11.30 伊藤</p>
12月	K・K	<p>I.「民医連のめざす看護の基本となるもの」の下記2点の評価視点からBESTOfキラリに認定しました。</p> <p>①患者の見方・とらえ方：医療感：医療は患者と医療者が平等の関係で協力し合うことで成り立つと認識したか。患者の希望を知り、患者本人と共に他職種で協力して希望を叶えるために調整した。</p> <p>②看護の視点・優点：患者の要求から出発する。：食事が食べられなくなり楽しみがなくなり、呼吸器までも装着した状態であっても、要求を引き出し、受け止め、実現に向けて取り組んだ事例。</p> <p>BEST Of キラリ</p>	<p>Kさんは、ALSの診断を受けて1年が経過し、誤嚥性肺炎を繰り返して、入院されていた。病状が進行する中で、繰り返し説明をして気管切開を実施。</p> <p>その後も、呼吸状態は悪化し呼吸器を装着したため、唯一の楽しみである食事を摂取することができなくなった。楽しみがなくなり、今後希望が持てず、寂しさも加わりナースコールを押すことが頻回であった。車椅子に乗って桜を見に行きたいという希望を叶えるために努力をしたが、結果としては叶えられなかったが、看護師の顔を見るたびに覚えていてくれて涙していた。</p> <p>実践した看護介護実践：チーム一丸となりナースコール対応やケアを実施。忙しい時間帯は、ケアの時間が確保できずに患者を我慢させてしまうこともあった。しかし、車椅子に乗って桜を見たいという希望を叶えるために他職種で協力し、患者とともに努力を続けた。</p>	<p>テーマ：患者の気持ちに寄り添い、信頼関係の構築 患者の希望を叶えるために他職種が協力し、同じ目標に向かって患者とともに努力することの大切さを学んだ事例。</p>	<p>看護部 2018.12.29 末吉</p>

2018	名前	選出理由	事例内容(概要)	事例(一番伝えたいこと)	表彰者
<p>1 月</p> 	<p>N ・ O</p>	<p>I.「民医連のめざす看護の基本となるもの」の下記2点の評価視点から BESTOfキラリに認定しました。 ①患者の見方・捉えかた：患者観：命の平等と個人の尊厳。患者を個人として尊重され生きる権利が保障される存在であるにとらえたか。 患者と向き合うことで時間としては数分ではあったが「来てくれてありがとう」との言葉が聞かれ、個人の思いに向き合えた事例である ②看護の視点・融点：患者の要求から出発する。頻回なナースコールでの訪室時も訴えが思うように表現できない患者であったが、腰部の痛みの訴えから思いをくみとり、かかわることが出来た事例である</p>	<p>Sさんは、十二指腸乳頭部・胆管癌術後、多発肝転移にて嘔気食欲低下あり、痛みも増強し入院となる。入院してから、食べれるものは食べようと頑張っている様子であったが徐々にごくわずかとなっていた。夜勤中、S氏からのナースコールはとて多く訪室しても、訴えが中々言葉に出来ていない様子であった。バイタル的には問題ないこともあり、緊急性は要さないと考え対応が後回しになってしまった。落ち着いたときに、訪室すると「つかれた」と発言があった。腰部痛の訴えもあったため、ホットタオルで暖めながらさすりました。時間としては数分ではあったが「来てくれてありがとう」と涙目で話してくれて、その後入眠することができた</p>	<p>テーマ：ゆっくりと向き合うとは時間の長さだけでなく、患者さんに響くこと 患者との数分のかかわりではあったが「ゆっくり向き合う」とは時間の長さだけでなく、患者さんに響くかということだと思った。介護度や重症度も年々上がっているが、日々忙しい中1つ1つのかかわりと丁寧に行っていかなければならないと、気づかせてくれた事例</p>	